

令和2年6月15日（第4号）

## 自走

特別進学コース主任  
平原 澄夫

「気温の上昇」「梅雨入り」と過ごしにくい季節になってきました。今年は「コロナ対策」も加わり、不便な生活が続きます。健康管理には十分気をつけ、周りの人々への配慮も忘れないようにしましょう。

今号は、「手段の目的化について」の話です。

手段の目的化とは、それをすること自体がその行動の主たる目的となってしまう、何のためにそれをやっているのかという本来の目的が置き去りにされている状態を意味します。このような状態に陥っている私たちの行動は想像以上に多く、学校生活にも多々あるように思われます。小テストを例にとりて考えてみましょう。

最初に、先生の立場から話します。先生はみなさんの理解度の確認や学力の向上を目指して小テストを実施します。ところが、月日が経過していくと、（本来の目的が置き去りとなり）テストを続けることに意識が集中していきます。先生の立場で言えば、生徒の取り組み状況（テスト結果など）に注視し、必要に応じて適切な指導やアドバイスを与えていかなければなりません。これは自身への反省です。では、みなさんの小テストへの取り組みはどうでしょうか。例えば、小テストに不合格となった場合、テストの訂正を義務つけられているとします。本来であれば、まず、なぜ不合格になったのか（勉強時間が問題なのか。勉強方法が問題なのか。そもそも理解できていなかったのか。）を振り返り、本番で同じ間違いをしないために訂正に取り組むべきです。ところが、小テスト本来の目的が置き去られ、テストを訂正することや訂正プリントを提出すること、場合によっては、先生に叱られないことがテスト訂正の目的になっていないでしょうか。時間をかけて訂正に取り組んだ割に成果が見えてこない。このような場合は手段が目的化し、同じことが繰り返されているのかもしれない。

このように、私たちの日常生活には、手段が目的化しているケースが多々あるように感じます。中には、手段が目的化されていても良いケースもあるでしょう。しかし、本来の目的を再確認することで、日々の活動がもっと有意義になると考えます。みなさんは、何を見直しますか。

質問：（Classi ポートフォリオで意見を共有して下さい。）

手段が目的化されても良いケースとそうではないケースの違いはどこにあると思いますか。具体的な例を挙げて説明して下さい。